

# 「小北文庫」：オーストラリア・ニュー・ジーランド・ その他太平洋地域の研究の宝庫\*

石 渡 茂

はじめに

「小北文庫」については、約 10 年以前一度農学部図書室（鹿児島大学附属図書館）で数日検討する機会があった。それは、1991 年 3 月のことと記憶しているが文書によって確認されていない。「小北文庫」の存在をどのように私が知ったかについては、今のところ正確な記憶はない。

当時の農学部図書室（と言われていたような記憶がある）は、木造平屋の建物で入り口から右に進んだ壁際ではなく、部屋の中央に「小北文庫」は開架式の書棚に一まとめにして設置されていた。この図書室は全室開架式であったように記憶している。当時私が尋ねた図書館員の話では、図書カタログは整備されているが「図書目録」は作成されていないとのことであった。図書カタログの photocopy を 1 部とっていただいたような記憶があるが、現在その所在は不明である。今回の第2回の訪問調査（2002 年 3 月 18 日（月）からの 3 日間）でいただいた『小北文庫目録』（鹿児島大学附属図書館蔵、1970 年 2 月、以下『目録』）との照合という作業が残されているが、そのコピーは今のところ所在不明のため作業を行なうことは出来なかった。次の機会にぜひ実施したいと思う。この『目録』の存在は、鹿児島大学の HP でその存在を知ることが出来た。残念ながら現在のところデジタル化がされていないため、同大学附属図書館の HP で「小北文庫」のコレクションを直接検索することは出来ない<sup>2)</sup>。

今回の調査では、新図書館本館 5 階の特別室の書庫に「小北文庫」は他の貴重資料と共に保存されており、その全容を目視することは出来なかった。利用上の不便さはあるが、貴重資料（特殊文庫／古文書）の一つとして「小北文庫」の価値が同大学内で認められたことは研究者として嬉しいことである。「小北文庫」の規模は、上記附属図書館の HP によると約 700 冊で、文庫として特に大型なものではない<sup>3)</sup>。『目録』のデータ入力による私の暫定的な分析では、タイトル数は 493（オーストラリア関連）と 200（ニュー・ジーランド・その他関連）の合計 693 タイトルである。1 タイトルで複数冊のものがあるので、冊数ではそれぞれ、511 冊と 208 冊の合計で 719 冊となる。

この文庫の特色については、『目録』の「まえがき」（鹿児島大学南洋研資料センター室長木崎良平氏）を参照されたい。私は 1975-77 年の 2 年間にシドニー近郊のニュー・サウス・ウェールズ大学に客員教授として滞在し、ボタニイ湾、ラ・ペルーズ上陸記念碑、ヴォークルーズ邸を訪れた経験があるので、特色あるコレクションがこれらと関連するもので構成さ

れていることは「小北文庫」への私の関心を一層高める要因でもある。

以下において、「小北文庫」の地域別・分野別タイトル数について1節で検討し、2節では発行年次別タイトル数について観察し、さらに3節では発行年次別・発行地別タイトル数について一つの作業仮説のもとに論じたい。この文庫のカバーする分野は多岐にわたっており、一人の専門分野としては広すぎるため、文庫全体の内容的特徴を論じることをこの研究ノート目的とすることは困難である<sup>4)</sup>。結語の直前の4節では、短期間の調査訪問で検討した数冊の蔵書について、若干の感想を述べたい。「小北文庫」の存在が、これらの地域に関心を持つ幅広い研究者により注目され、日本における研究水準の向上に資することを熱望する者であり、同時に本研究ノートの目的でもある。

## 1. 「小北文庫」の地域別・分野別タイトル数分布

以下で検討する地域・分野別分類は、『目録』に依拠した<sup>5)</sup>。

地域分類：

- ①一般
- ②豪州（オーストラリア）
- ③ニュー・ジーランド
- ④太平洋地域
  - (a) メラネシア・カナカ・フィジー・ハイチ
  - (b) ポリネシア
  - (c) カロリン群島・ニューヘブリデス・ハワイ
- ⑤東南アジア
  - (a) インドネシア
  - (b) ボルネオ・インドシナ・ニュー・ギニア
  - (c) インド・スリランカ・チベット・ネパール
  - (d) フィリピン
- ⑥東アジア・その他

の6地域である。⑤の(a)と(b)の分類に不明確さがあるが、本稿では『目録』の分類にしたがっている。分野分類は地域により異なり、①太平洋地域以下⑥東アジアまでは地域分類に一致する。

分野分類：

- Ⓐ一般
  - (a) 一般著作
  - (b) 自伝
  - (c) 航海・旅行
- Ⓑ豪州

- (a) 一般著作
- (b) 歴史
- (c) 地理・旅行
  - (c-1) 豪州・クイーンズランド (QUE)
  - (c-2) ニュー・サウス・ウェールズ (NSW)・ヴィクトリア (VIC)
  - (c-3) 南オーストラリア (SA)・タスマニ
  - (c-4) 北オーストラリア (NA)・西オーストラリア (WA)
- (d) 民俗学
- (e) 社会科学
  - (e-1) 一般
  - (e-2) 法律
  - (e-3) 経済学・教育
- (f) 生物学
  - (f-1) 植物学・動物学
- (g) 農業
- (h) 家畜
- (i) 工業・鉱業・交通
- (j) 芸術・言語・文学
- ◎ ニュー・ジーランド
  - (a) 一般著作
  - (b) 歴史
  - (c) 地理
  - (d) 社会科学
  - (e) 生物学
  - (f) 農業・家畜・工業・文学
- ④ 太平洋地域
- ⑤ 東南アジア
- ⑥ 東アジア
- ⑦ その他
- ⑧ 付録
  - (a) 動物学

「小北文庫」の地域別分布の特徴としてタイトル数では、豪州とニュー・ジーランドで全体の71.0%を占めていることである。これらに太平洋地域(6.5%)を加えると77.5%となり、「小北文庫」の収集の基本方針が大洋州地域にあったことが推定される。その他の地域としては、東南アジア(8.2%)、東アジア・その他(6.1%)、そしてこれらの地域一般(8.2%)とから

構成されている。(表1参照)

表1 「小北文庫」の地域別・分野別タイトル数分布

	一般	豪州	ニュー・ ジーランド (NZ)	太平洋地域	メラネシア・カナカ・ フィジー・ハイチ	ポリネシア
一般						
一般著作	8			22		
自伝	31					
航海・旅行	18					
豪州・NZ・太平洋地域						
一般著作		59	18	23	6	7
歴史		63	9			
地理・旅行		56	8			
豪州		21				
QUE		6				
NSW		7				
VIC		7				
SA		2				
タスマニア		2				
NA・WA		3				
民俗学		8				
社会科学		89	10			
一般		49				
法律		20				
経済学		7				
教育		13				
生物学		25	7			
植物学		20				
動物学		5				
農業		39	*6			
家畜		36				
工業・鉱業・交通		28				
芸術・言語・文学		39				
合計(タイトル数)	57	604	58	45	6	7
合計(%)	8.23	62.63	8.37	6.49	0.87	1.01

	カロリン群 島・ニュー ヘブリデス ・ハワイ	東南アジア	インド ネシア	ボルネオ・ ニューギニア	インドシナ	インド・ スリランカ・ チベット・ ネパール	フィリピン	東アジア ・その他
一般著作	10	51	15	7	10	13	6	
歴史		5					5	
農業		1					1	
動物学								2
東アジア								22
その他								18
合計	10	57	15	7	10	13	12	42
合計 %	1.44	8.23	2.16	1.01	1.44	1.88	1.73	6.06

[注] \*印は農業・家畜・工業・文学を含むことを示す。

「小北文庫」の分野別分布は、当然のことながらコレクション選定者である小出満二の専門分野である農業経済学・植民地政策に大きく依存しているように思われる。「当時の農学部は、いわば今日の教養学部を含む一大学部であった」というのが、私の当時の農学部教育に対する作業仮説である。このような作業仮説を主張する一つの根拠は、北海道大学附属図書館に所蔵されている「旧札幌農学校図書館蔵書」を検討すると、この仮説の妥当性への強力な根拠となるだろう。小出満二は第一高等学校二部農科志望学科を1902年7月に卒業し、その後東京帝国大学農科大学農学科に進み、1906年7月に同科を卒業している。同科卒業後、東京帝国大学農科大学の大学院に進学し、さらに1907年10月に同大学の助手に任用された。1909年12月から3年間、専門分野である農業経済学と植民地政策研究のためドイツ・イギリスへの留学の経験をもった。帰朝後鹿児島高等農林学校教授に就任した。小出が豪州へ出張したのは、1919年2月から1921年3月までの約2年間であった<sup>6)</sup>。

この豪州滞在時代に、同地在留の実業家北村寅之助の援助により収集され、同校に寄贈されたものである。「小北文庫」という命名は、両人の姓の第一字を採ったものであるといわれている<sup>7)</sup>。

コレクション全体の過半数(62.6%)を占める豪州についてその分野別構成比をみると、一般著作 (General Works)、歴史 (History)、地理・旅行 (Geography・Travels) の構成比合計は25.7%である。これに対して、社会科学 (Social Sciences) は12.8%、生物学・農業・家畜は言語14.4%でその構成比合計でも27.2%である。構成比は低いが、民族学 (1.2%) と芸術・文学 (5.6%) は注目に値する。小出の同郷の柳田国男とは親交があり、民俗学の蔵書が多かったこととの関連が推測される<sup>8)</sup>。以上のような「小北文庫」の分野別構成分布から、この文庫の分野別特質が見えてくる。そして、その背後に小出の持つ広い分野に対する関心が推測される。なお、小出の専門分野の書籍については、この文庫に含まれないような形態で集書が行われたと考えることは、事実が大きく反することであろうか。「小北文庫」を越えた農学部のコレクションのこの時期の検討が必要となる。また、小出の個人的蔵書リストの検討を試みる必要も痛感するが、小出の没後22年を経過している今日では、このような試みを実行することは不可能であろう。

## 2. 「小北文庫」の発行年次別タイトル数分布

つぎに、「小北文庫」の発行年次別分布について、表2をもとに検討しよう。この表の作成にあたって、(1)『目録』の1頁から20頁までをオーストラリア、21頁以後29頁までをニュー・ジーランド等と関連地域を2分した。(2)年次は、1790年代以前は、該当する年次(1668年、1783年、1788年、1789年、1798年)を採用した。貴重な古書の情報を一覧できることを考慮したからである。1800年代からは10年単位を採用した。なを、1800-1899年は、前半と後半に分けて小計を設けた。「小北文庫」には小出が豪州から帰国後の時期に発行されたものが若干ある。滞在中に発注したものが帰国後何らかの手段で送付されたのである

表2 「小北文庫」の発行年次別タイトル・冊数分布

年次	オーストラリア		ニュー・ジーランド等		合 計			
	タイトル数	冊 数	タイトル数	冊 数	タイトル数	同 (%)	冊 数	同 (%)
1668	0	0	1	1	1	0.1	1	0.1
1783	1	1	0	0	1	0.1	1	0.1
1788	0	0	1	2	1	0.1	2	0.3
1789	1	1	0	0	1	0.1	1	0.1
1798	1	2	0	0	1	0.1	2	0.3
小計	3	4	2	3	5	0.7	7	1.0
1800s	1	1	0	0	1	0.1	1	0.1
1810s	2	5	3	4	5	0.7	9	1.3
1820s	2	3	3	3	5	0.7	6	0.8
1830s	6	6	1	2	7	1.0	8	1.1
1840s	11	12	6	6	17	2.5	18	2.5
小計	22	27	13	15	35	5.1	42	5.8
1850s	8	9	2	2	10	1.4	11	1.5
1860s	6	6	6	6	12	1.7	12	1.7
1870s	21	22	9	10	30	4.3	32	4.4
1880s	40	41	14	14	54	7.8	55	7.6
1890s	59	62	23	26	82	11.8	88	12.2
小計	134	140	54	58	188	27.1	198	27.5
1900s	64	64	34	34	98	14.1	98	13.6
1910s	224	230	57	58	281	40.5	288	40.0
1920s	9	9	19	19	28	4.0	28	3.9
1930s	2	2	4	4	6	0.9	6	0.8
小計	299	305	114	115	413	59.6	420	58.3
nd	35	35	17	17	52	7.5	52	7.2
合計	493	511	200	208	693	100.0	720	100.0

う。(3) 発行年の記載のないタイトル数は 52 (7.5 %) あり、これらはここでの考察から除外される。

「小北文庫」の最も出版年の古いタイトル数は 5 ある。それらの内 4 タイトルはロンドンで発行されたものであり、残りの 1 タイトルはシドニーで発行された以下のものである。

- (i) Rycaut, Paul. 1668. *The present state of the Ottoman Empire*. London: John Starkey and Henry Brome. (730-11-19-28)
- (ii) Lang, John Dunmore. 1783. *Poems: sacred and secular: written chiefly at sea, within the last half century*. Sydney: William Maddock. (730-8-19-20)
- (iii) Keate, George. 1788. *An account of the Pelew Islands, situated in the western part of Pacific Ocean, composed from the journals and communications of Captain Henry Wilson*. London: G. Nicol. (730-18,19-11-24)
- (iv) Phillip, Arthur. 1789. *The voyage of governor Phillip to Botany Bay*. London. (730-369-15-3)

(v) Murreau, M.L.A. Milet. 1798. The voyage of La Perouse round the world. London: Printed for John Stoughton. (730-24,25-10-3)

(ii) の詩集を除く 4 タイトル 6 冊は、航海記または旅行記に分類されるものである。(i) は「チャールズ二世時代の駐トルコ英大使秘書」であった Paul Rycout によるオスマントルコ帝国に関する国情を記述したものである<sup>9)</sup>。(iv) と (v) はシドニー近郊のボタニー湾への探検航海に関連する。ボタニー湾入り口の北側の岬は、ラ・ペルーズと命名された地域であり、岬先端の湾側に「ラ・ペルーズ記念碑」がある。ニュー・サウス・ウエールズ州の開拓は、ボタニー湾ではなくて、その北方にあるシドニー湾で開始された。

小出のシドニー滞在は 1919 年 2 月からの約 2 年間であった。したがって上記 5 タイトルを含む滞在以前に刊行されたものの多くは、古本による購入であろうと推測される。一例をあげると、ダーウインの著書がある<sup>10)</sup>。本書の表扉には中央に「鹿児島高等農林学校図書館」の印があり、その上に縦書きの「小北文庫」印が押されている。その左側の上方すなわち表紙の裏にあたる部分に、ペン書きでもとの所有者の署名とその略歴と思われる情報が記入されている。明らかに古書であったことが分かる。ただし、本書を古書として扱った古書店に関する情報は、私が調査した範囲では発見できなかった。あるいは誰かが小出に寄贈したものかもしれない。

1800 年代前半に出版されたものは、タイトル数 35 (5.0%)、冊数 42 (5.8%) である。また、1800 年代後半ではそれぞれ、188 (27.1%) と 198 (27.5%) である。前半と後半を合計すると 1800 年代に出版されたものは、コレクション全体の約 1/3 となる。1900 年以降に出版されたものの中で、1910 年代のものが最も多く、それぞれ 281 (40.5%) と 288 (40.0%) である。1930 年代の 6 タイトル (冊数も同じ) は、出版地がロンドン (5 タイトル) とニュー・ヨーク (1 タイトル) である。1900~1933 年までに出版されたものはコレクションの過半数であり、それぞれタイトル数 413 (59.7%) と冊数 421 (58.5%) である。

### 3. 「小北文庫」の発行地別タイトル数分布

「小北文庫」のマクロ視点からの最後の検討は、発行地別タイトル数の分布である。発行地 (地域を含む) 別のタイトル数全体としては、ロンドンが最も多く 230 (33.2%)、以下シドニー 197 (28.4%)、メルボルン 119 (17.2%)、この分布をさらに発行年次別とクロスさせ行列表示 (表 3 参照) とすると、ロンドンを出版地とするタイトル数は、1800 年代後半が最も多く 38.7%、シドニーの場合 1910 年代の最多 53.8% と対照的である。この傾向は第 3 位の構成比を占めるメルボルンにおいても 1910 年代の最多 52.1% という傾向はシドニーと同様である。

ここで考えられる作業仮設は、「1800 年代までは豪州の出版は宗主国イギリスに抑えられていたが、1901 年連邦制度国家の確立による政治体制の変化が、豪州の出版を加速した」というものである。各州政府の出版が連邦制を機に増加したのではないか。

一方、タイトル数の絶対値で発行地別を比較すると、ロンドンは 1880 年代後半が最高の

表3 「小北文庫」の発行年次別・発行地別分布

年次	London		Sydney		Melbourne		Brisbane	
	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)
～1790s	4	1.7	1	0.5		0.0		0.0
1800s～ 1840s	25	10.9	2	1.0	1	0.8		0.0
1850s～ 1890s	89	38.7	44	22.3	23	19.3	6	35.3
1900s	29	12.6	32	16.2	14	11.8	4	23.5
1910s	59	25.7	106	53.8	62	52.1	7	41.2
1920s	8	3.5		0.0	2	1.7		0.0
1930s	5	2.2		0.0		0.0		0.0
小計	219	95.2	185	93.9	102	85.7	17	100.0
No date & no place	11	4.8	12	6.1	17	14.3		0.0
合計	230	100.0	197	100.0	119	100.0	17	100.0
同 (%)	33.2		28.4		17.2		2.5	

年次	North America		UK (exc. London) & Ireland		New Zealand & Other regions*		Total	
	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)	タイトル数	同 (%)
～1790s		0.0		0.0		0.0	5	0.7
1800s～ 1840s		0.0	2	11.1	3	3.8	33	4.8
1850s～ 1890s	4	11.8	8	44.4	17	21.8	191	27.6
1900s	3	8.8	3	16.7	12	15.4	97	14.0
1910s	14	41.2	3	16.7	27	34.6	278	40.1
1920s	11	32.4	2	11.1	5	6.4	28	4.0
1930s	1	2.9		0.0		0.0	6	0.9
小計	33	97.1	18	100.0	64	82.1	638	92.1
No date & no place	1	2.9		0.0	14	17.9	55	7.9
合計	34	100.0	18	100.0	78	100.0	693	100.0
同 (%)	4.9		2.6		11.3		100.0	

[注] \*印は表1と同じ。

89 タイトルに対して、シドニーはその約半分の 44 タイトル、そして第3位のメルボルンはロンドンの約4分の1の23 タイトルである。これに対して1910年代では、シドニーの106 タイトルは、ロンドンの59 タイトルの1.8倍であり、メルボルンはロンドンを凌駕して62 タイトルを記録している。また1900年代でもタイトル数で、シドニーはロンドンより多いことが表3から観察される。

これらの観察には注釈が必要である。それは、『目録』における発行年／発行地／出版社の記録がないものについてである。原本にこれらが記載されていないかどうかは、それぞれ原本にあたって再検討が必要であるということである。次の4節で言及する4タイトルについて



て述べると、「ヴォークルーズ・ハウス」(2)については、出版社についての記述は発見できなかった。しかし、コグラン(3)については、『目録』では出版社名は記載されていないが、原本の調査では、「オックスフォード大学出版会」の出版物であることが明記されている。洋書のカタログニングの専門性が高い仕事であることは熟知しているつもりであるが、デジタル化への対応という作業の必要性の中で、この作業が早急に行なわれることを期待したい。

#### 4. 「小北文庫」の中の4タイトルの書籍について

わずか実質2日間という短期間の訪問調査で、原本に接して調査したのは以下の4タイトルであった。

- (1) Darwin, Charles. 1845. *Journal of researches into the natural history and geology*. London: John Murray. (730-12-10-1)
- (2) Bertie, Charles H. 1918. *The story of Vacluse House and Sir Henry Browne Hayes*. Sydney: (730-168-15-2)
- (3) Coghlan, T.A. 1904. *A statistical account of Australia and New Zealand 1902-3*. Sydney: The Government of the States of New South Wales and of the Commonwealth of Australia, Tenth Issue, W.A.Gullick, Government Printter, pp. 967. (730-195-15-10)
- (4) Coghlan, T.A. 1918. *Labour and industry of Australia from the first settlement in 1788 to the establishment of the Commonwealth in 1901*, vols.1-4. London: Oxford University Press. (730-196, 197, 198, 199-15-10)

ダーウインの著書(1)については、2節で既に言及している。表表紙の裏の書き込みについては、デジタル・カメラで撮影したが、解像度が悪く判読できなかった。元の所有者と思われる者の書き込みをここに紹介できないことは残念である。そのことよりも、小出がダーウインのこの著書を購入した理由を少し推察してみよう。小出が「進化論」に関心を持っているという資料上の根拠を持っているわけではないが、新渡戸稲造の学問上の弟子で、農学部在籍したということは、その可能性が高かったのではないかと私は推測する。『聖書之研究』(内村鑑三主筆)の購読者であったこともこの推測を補強する間接証拠となるであろう。内村鑑三の1920年3月2日の日記に、「角筈時代の教友の一人なる法(農の誤り:筆者)学士小出満二より濠洲シドニー大学発の書面が達した、面白い手紙なるが故に左にこれを掲ぐる。」<sup>11)</sup>として豪州シドニーからの小出の手紙を紹介しているからである。なお、本書の目次(かなり詳細なもので、内容の要約ともいえるもの)もデジタル・カメラで撮影したが判読できるほど解像度が高くなく、ここにその概要を紹介できないことは残念である。

「ヴォークルーズ・ハウス」に関する文献(2)を確認したのは今回が初めてである。ヴォークルーズという地名が、シドニー湾(正確にはジャクソン港)の南側の入り口地域にあり、シドニーの中心街から東に向かう旧サウス・ロードと湾岸よりの新サウス・ロードとが交差するあたりの地域で、大変風光明媚な地域である。初期の貴重な図版があり、デジタル・カ

メラに納めたが、解像度が低く判読できない状態なのは残念である。

コグランの著書 (3) は、「豪州年報」というべき性格の出版物である。第 10 版ということであるから 9 年またはそれ以上前に第 1 版が刊行されたのであろう<sup>12)</sup>。これらの情報から、豪州および各州の GDP を推計する可能性を検討したいと思い、必要な個所のフォト・コピーを図書館の許可を得て撮らせていただいた。現在まだその検討はしていないが、近い将来に検討を行ないたい。本書は、GDP 推計に必要な情報を豊富に提供してくれるものである。なお、豪州の GDP の推計はバトゥリンにより既に行なわれているが、バトゥリン推計と本書との関連は将来の検討課題となる<sup>13)</sup>。

コグランのもう一つの著書 (4) は、4 巻 2000 頁を越える大著である。著者は豪州への定住から 1901 年の連邦制国家設立までを 7 期間に区分して叙述している。すなわち

第 1 期：植民の基礎固めからブルーマウンテン越えまで

第 2 期：ブルーマウンテン越えから割り当て制度の廃止まで

第 3 期：割り当て制度の廃止から金の発見まで

第 4 期：金の発見から調査前の土地自由選択の導入まで

第 5 期：調査前の自由選択の導入からヴィクトリア州における保護の確立、および全ての植民地における公共事業の大胆な政策の実施まで

第 6 期：1873 年から 1893 年の金融危機まで

第 7 期：1893 年の金融危機から 1901 年の連邦国家設立まで

である。

1788 年の最初の植民から 1901 年の連邦制国家の確立までの 113 年間に豪州の労働と産業について考察し、それらを規制する主要因として (i) 移民、(ii) 土地立法、(iii) 物価、(iv) 政治行動を注目している。豪州における植民政策の特異性について、小出は深い関心を自らの専門分野として持っていたものと思われる。「小北文庫」の中で数少ない小出の専門分野に関連した書籍であろう。植民初期の囚人労働の割り当て制廃止から自由労働の導入、金鉱の発見による有色人種労働の導入、中国人労働の排除、白豪主義の出現が、この期間における豪州の移民政策を中心とした労働の動向である。本書のもう一つの課題である産業の発展を規制する要因として、土地制度と鉄道建設がある。農業・牧畜業はいうまでもなく、これらの生産物を中間投入として用いる製造業の発展も、土地の排他的利用権を規定する土地制度に強く依存するからである。もう一つの鉄道建設は、政府の行う公共事業政策に同様に依存する。物価への関心は実質労働賃金を規定するからであり、通貨・銀行制度・為替の動向は、豪州における製造業の発展を支える資金融資の条件を規定するからである。高関税の設定と産業保護貿易は、豪州における労働と産業の動向に大きな影響を与えてきた。政治行動としては、産業の発展と共に労使紛争が起こり、労働党の結成へと導いた<sup>14)</sup>。

## 結語

本稿の目的は、「小北文庫」がこの地域の研究において研究資料としてのいかに重要かという私の判断を示すことである。そのため、一方ではやや長い引用を含む文末注があり、他方では文庫全体の必要な書誌情報が提供されていない。そのためには『小北文庫目録』の掲載が不可決ではあるが、スペースの制約で断念せざるを得ない。最近、大学図書館の多くはその所蔵図書のリジタル化を行ない、HP 上での公開が進んでいる。しかしながら、その公開は、一般的には最近の出版物に限られ、歴史の長い図書館ほど古い時期に出版された図書についてのリジタル化が遅れている。リジタル化には予算上の制約があり、最近の出版物から作業が行われるという作業上の選択順位のために、どうしてもリジタル化から取り残されてしまうものが出る。そのようなものの中に、実は「小北文庫」のような貴重な資料が含まれることになる。

「小北文庫」が孤立しては、その重要性を十分に発揮することは困難であろう。国際的なネットワークの中でこそ、その重要性はより高くなるのではないか。

## 注

- \* 今回の「小北文庫」の調査では、鹿児島大学附属図書館情報サービス課資料サービス係諸岡静児氏に事前の E メールでの連絡も含めてお世話になったことを感謝したい。なお、本調査には 2001 年度国際基督教大学「研究旅費」が用いられた。また、本稿のための作業上『小北文庫目録』のリジタル化によるデータベースの作成のため、スキャナーによる読み取りについて、本間信長氏（本学社会科学研究所助手）の技術的な援助を受けた。
- 1) 「小出詩子年譜」（2002 年 3 月 17 日「小出詩子追悼記念礼拝、国際基督教大学教会堂、司式古屋英雄牧師」において配布、友人中村妙子氏より郵送していただいた）によると「1991 年 6 月に古希を迎え、「小出先生の古希をお祝いする会」が東京六本木の国際文化会館で開かれる。」とあり、奇しくもこの会に出席してお祝いの言葉として、同年 3 月に鹿児島大学の農学部図書室で、「小北文庫」を調査し、同時に小出詩子先生出生の地の朽ちた門構えをキャンパ内に発見したとの内容を述べた記憶がある。
- 2) 『目録』では [730-a-b] という、3 つの数字に分類されている。最初の「730」は、小北文庫を示すもので全てのタイトルに共通するものである。2 番目の数字「a」はタイトル番号で、最後の数字「b」は、地域分類を示すと私は判断している。ただし、『目録』には分類番号（「請求番号」と『目録』では呼ばれている）についての説明はなく、図書館でも不明とのことであった。  
なお、「b」の後の「-数字」は『目録』の頁数の参照のために筆者が付け加えたものである。
- 3) HP は (<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/collec.html/>) である。
- 4) 700 冊を越える書籍の内容を検討することは、短期間の訪問調査では無理である。全タイトルの書誌情報のリジタル化だけでなく、全文のリジタル化が必要であろう。
- 5) 詳細は『目録』所収の「目次」参照。
- 6) 『目録』所収の「小出満二先生年譜」参照。
- 7) 『目録』所収の「まえがき」参照。なお、北村寅之助についての履歴の詳細は不明である。

- 8) 「小出詩子年譜」の1921年6月23日記事参照。
- 9) 『目録』所収の「まえがき」参照。
- 10) Darwin, Charles. 1845. *Journal of researches into the natural history and geology*. London: Richard Bentley. (73-12-10-1)
- 11) 『内村鑑三全集 33 日記一』岩波書店、216-217 頁。
- 12) 『目録』にはこれらの情報は掲載されていない。以下に参考として、本書の「目次」を引用する。括弧内の数字は頁数を示す。

Preface. By T.A. Coghlan, Statistician's Office, Sydney, 27th January, 1904

#### Contents

Area and Physical Configuration (1) ; Australia (2) ; New South Wales (6) ; Victoria (19) ; Queensland (24) ; South Australia (30) ; Western Australia (36) ; Tasmania (40) ; New Guinea (44) ; New Zealand (46) ; Climate (54) ; The Discovery of Australia and New Zealand (60) ; Chronological Table for Australia and Tasmania (69) ; Chronological Table for New Zealand (84) ; The Commonwealth (111) ; Constitution of the Commonwealth (111) ; Constitution of the States of New Zealand (135) ; Population (165) ; Mineral Resources (193) ; Agriculture (240) ; Religion (295) ; Private Property and Incomes (304) ; Railways (327) ; Pastoral Resources and Dairy Industry (403) ; Defense (437) ; Social Condition (446) ; Shipping (482) ; Education (500) ; Food Supply (525) ; Land and Settlement (548) ; Industrial Progress (601) ; Vital Statistics (663) ; Local Government (693) ; Accumulation (716) ; Posts and Telegraphs (750) ; Commonwealth Finance (769) ; State Finance (791) ; Commerce (864) ; Employment and Production (900) ; The Manufacturing Industry (918) ; General Index (959).

- 13) Butlin, N.G. 1962. *Australian Domestic Product, Investment and Foreign Borrowing 1861-1938/39*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 14) 参考のために、やや長い引用となるが本書の「目次」を引用する。括弧内の数字は頁数を示す。

#### Contents

##### Volume I

##### Part I: From the Foundation of Settlement to the Crossing of the Mountains

- I. Introduction to the First Period (3)
- II. The Assignment System (24)
- III. Musters (40)
- IV. Wages and Working Hours (48)
- V. The Currency (67)
- VI. Land Policy (85)
- VII. The Genesis of the Wool Industry in Australia (93)
- VIII. The Industries of the Period (114)
- IX. Trade and Prices (132)

##### Part II: From the Crossing of the Mountains to the Abolition of the Assignment System

- I. Introduction to the Second Period (155)
- II. Convict Labour: Assignment (173)

- III. Free Labour (200)
  - IV. Immigration (215)
  - V. The Occupation of Land (229)
  - VI. Agricultural and Pastoral Pursuits (249)
  - VII. The Currency (257)
  - VIII. Trade and Prices (274)
- Par III: From the Abolition of the Assignment System to the Discovery of Gold
- I. Introduction to the Third Period (293)
  - II. Transportation (321)
  - III. Immigration (358)
  - IV. Land Legislation in New South Wales, Van Diemen's Land, and Western Australia (377)
  - V. Land Legislation and Settlement in South Australia and the Wakefield Theory of Colonization (404)
  - VI. Labour and Wages (424)
  - VII. Prices (460)
  - VIII. Financial Crisis of 1841, 1842, and 1843 (473)
  - IX. Industries (503)
- Part IV: From the Discovery of Gold to the Introduction of Free Selection of Land Before Survey
- I. Introduction to the Fourth Period (519)
  - II. The End of the Convict System (553)
  - III. The Discovery of Gold in Australia (563)
- Volume II
- Part IV -Continued
- IV. Immigration (589)
  - V. Land Legislation and Settlement (644)
  - VI. Industries (673)
  - VII. Wages and Conditions of Labour (687)
  - VIII. Prices (783)
  - IX. The Railway Beginnings of Australia (830)
  - X. Currency, Banking, and Exchange (846)
- Part V: From the Introduction of Free Selection Before Survey to the Establishment of Protection in Victoria, and the Beginning of a Vigorous Policy of Public Works in All the Colonies
- I. Introduction to the Fifth Period (869)
  - II. Immigration (908)
  - III. Recrudescence of Bushranging (959)
  - IV. Land Legislation and Settlement (971)
  - V. Labour and Wages (1018)
  - VI. The Introduction of Coloured Labour into Queensland (1088)
  - VII. Prices (1095)

- VIII. Tariff Changes and the Establishment of Protection into Queensland (1136)
- IX. Intercolonial Tariff Relations (1161)
- X. The Crisis in Queensland during 1866 (1168)

Volume III

Part V -Continued

- XI. Trade and Industry (1187)
- XII. Currency and Banking (1206)
- XIII. Railway Extension and Public Works Policy (1218)

Part VI: From the Year 1873 to the Financial Crisis of 1893

- I. Introduction to the Sixth Period (1231)
- II. Immigration (1280)
- III. The Exclusion of the Chinese (1331)
- IV. Land and Settlement (1346)
- V. A Vigorous Policy of Public Works (1405)
- VI. Labour and Wages (1425)
- VII. The Maritime Strike of 1890 (1591)
- VIII. Prices (1608)
- IX. The Financial Developments of the Period and the Crisis of 1893 (1633)

Volume IV

Part VI -Continued

- X. Trade and Finance in South Australia (1791)
- XI. Trade and Finance in Western Australia and Tasmania (1812)
- XII. The Formation of a Political Labour Party in Australia (1833)

Part VII: From the Financial Crisis of 1893 to the Establishment of the Commonwealth in 1901

- I. Introduction to the Seventh Period (1941)
- II. Land Legislation and Settlement (1963)
- III. Immigration (2009)
- IV. Labour and Wages (2013)
- V. Factory and Shop Legislation and the Settlement of Industrial Dispute (2087)
- VI. Prices (2117)
- VII. Trade and Banking After the Crisis (2125)
- VIII. The Labour Party: Continuation of its History (2178)
- IX. White Australia (2317)
- X. Events Leading up to the Federation of Australia (2326)

Preface

The things most nearly affection the Labour movement in Australia-immigration, land legislation, prices and political action-are dealt with herein almost to the exclusion of other matters to which historians usually devote their chief attention, and therefore while this book as a history of Labour it is not a history of Australia. It is based on official records, contemporary newspapers or other publications,

and on information obtained directly from many persons who played a prominent part in Australian affairs from 1880 onwards. For the statistics I am my own authority, as also for the account of the banking crisis of 1893 and for some phases of the labor movement.

In compiling this work I have had help from many quarters. I am especially grateful for the co-operation of Mrs. J. S. H. Lander, whose wide knowledge and great industry I cannot praise too highly. I stand indebted the late Captain Nowell for notes and suggestions on the later history of the labor movement, and to Mr. J. L. Gay Brereton for researches in regard to the developments of the second period. T.A.C.